

JCDNダンス作品クリエイション&全国巡回プロジェクト

「踊りに行くぜ!!」

Ⅱ セカンド vol.3

京都・東京公演

同時代に生きる3組の作家が挑んだ
ダンス作品制作。

3つの新作を一挙に上演。



京都

2013年

3/9 土 19:00

3/10 日 15:00

京都芸術センター 講堂

〒604-8156 京都市中京区山伏山町 546-2 TEL: 075-213-1000

共催: 京都芸術センター



東京

2013年

3/16 土 15:00
19:00

3/17 日 15:00

アサヒ・アートスクエア

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋 1-23-1 スーパードライホール 4F

TEL: 090-9118-5171 (事務局専用/10:00-18:00)

協賛: Asahi



「踊りに行くぜ!!」

Ⅱ セカンド vol.3

京都・東京公演

巡回公演最終地—京都・東京において、新作3つを上演します!

「踊りに行くぜ!!」Ⅱは、ダンス作品制作における制作過程から、巡回公演での作品上演までをフルサポートするプロジェクトです。昨年7月に新作のアイデアを全国公募から選出。年内12月までは、ダンス イン レジデンスなどで集中した作品制作を行い、年明け1月より鳥取、札幌、仙台、福岡での巡回公演を経て、最終地の京都・東京公演での上演となります。同時代の作家たちがオリジナルな手法を見出すべく取り組んだ意欲作に、どうぞご注目ください!

今回上演します3作品は、「踊りⅡ」◆A ダンスプロダクション・サポートプログラムにて、演出家・振付家・ダンサー・美術家・音楽家・映像作家など作品に必要な構成メンバーを編成し、作品制作を行いました。

米国の高校時代からクラスメートだった
ダンス:Sho×音楽:mmm×美術・映像:Keita
トリオの初共同制作



撮影:ふみまる

真・奇想科学世界ダンサーボーイ

生島翔・大迫毛太 (東京)

作:生島翔、大迫毛太
演出・ダンス:生島翔
映像・美術:大迫毛太
音楽:mmm

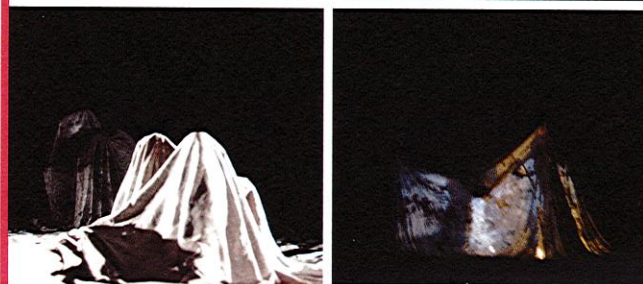
世界創世神話の中に「世界巨人」の眼が太陽と月に、手足が山々に、息が風に、血が水に、肉が土になって世界が作られたと語るものがある。
では、この社会にある数々のモノは「世界巨人」のどの部分にあたるのだろうか?
現代社会において「世界巨人」の脈動と運動を再認識すること。それこそがダンサーボーイの使命である。

レコメンド

大迫毛太はモニターを眺めながらダンスを踊りたいと感じていた。mmmはビター&スウィートな歌を歌いながら人々を踊らせたくてウズウズしていた。生島翔は様々な土地を横断しこれから日本で踊る場所を求めている。地平線の向こう側で彼らは、鬼の形相で丘を転がり、猛々しい歩みで海へと向かっていた。いま、三人は、神話の中のダンサーボーイに使命を託した。はたしてなにゆえに? 突如として現れた、この奇想科学世界に放り込まれたダンサーボーイはどんなステップを踏むのか?

きょんきょん (インベンター×インベンター)

美術家の視点で、ダンスの新たなかたちを
表そうとするカミイケタクヤ作品



House the homeless

カミイケタクヤ (香川)

作・演出・美術:カミイケタクヤ
振付・出演:加藤千明、渋谷陽菜
音楽提供:熊地勇太

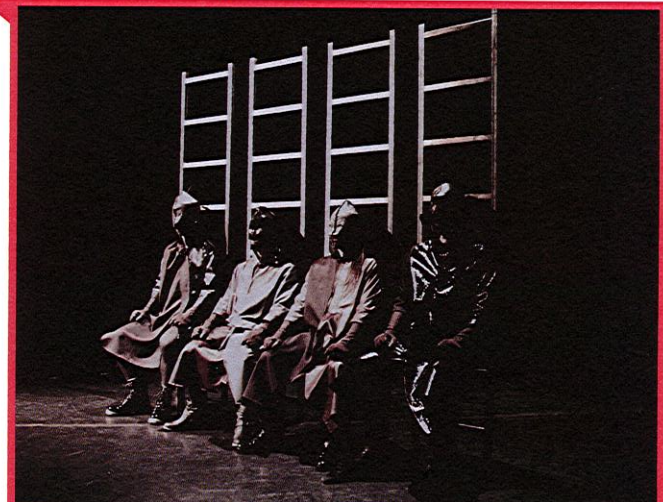
ミシンの音が聞こえる。
雨の音も聞こえる。
誰かが歩いていて、誰かが布をたくしあげている。
その時には汲み上げられていた、いつかの記憶。
梯子を捨てて、船を洗って、紙を丸めて
記憶にあるような景色を眺めながら歩く。
飲みかけの珈琲をもらって、飲む。
一欠けらのパンを子犬と子猫と分け合う。
今日はたくさんの傘が集まった。
あるホームレスは言う。
このままでいいんだ。これがいちばんしあわせなんだ。

レコメンド

布の下でうごめく得体の知れない生き物。これは果たしてダンス作品なのだろうか?布というフィルターを介することにより、観客はその細部に目を凝らし、身体の輪郭/動きに集中することを余儀なくされる。普段ぼんやりと見ていた身体が、急にリアルに浮かび上がってくる。僕は普段、こんなにも豊かな身体に気付かずに生きていたのか、とハッとさせられる瞬間。そういう意味で、これは確かに「ダンス作品」である。この作品の主題であるホームレスは家を持たない。ただそれだけを理由に僕は彼らの存在を素通りする。しかし、そこには僕らと変わらない生/身体がある。布に覆われた身体を通じて、彼らの幸せを想像することは出来るだろうか?

奥野将徳 (プリログ/ドリル)

鍛え抜かれた身体で究極のダンス・ライブを魅せる
MuDA男衆。今回は、音楽家・美術家とタックル
真っ向から作品勝負する新生MuDAに期待!



MuDA G

QUICK (京都)

構想:QUICK 作:MuDA
振付・ダンス:QUICK、合田有紀、内田和成、松本成弘
音楽:山中透 美術:井上信太 映像:小西小多郎
衣装:南野詩恵 椅子:吉野央子 制作:秋山はるか

僕達が存在するこの宇宙は、核分裂、核融合を繰り返しながら、広がり続けている。ぶつかる衝撃が無ければ、宇宙や星々、生命の誕生はあり得ない。僕達人間も環境や人々、物事と常に接触し、時に衝突し合う。その度に不安、不満、抑圧、障害、そういうものでいっぱい、の負担を背負う。負担はもちろん苦しくて、重たい。そして突然、問答無用にやってくる。やるコトはたった一つ。みんな分かっているコト。問答無用には、問答無用で立ち向かえば良い。負担を、衝撃を、次に転換する。立ち止まったら進み始める。倒れたら立ち上がる。

レコメンド

MuDAの投げるボール玉に、ぼこぼこ当たった。直球だった。踊りは繰り返され、地面と格闘し、ダンサー同士が苦悩する。音楽や美術も、圧倒的な身体と、緊張感を持ってライブ、まさに一回のライブの舞台を作り上げる。「ストライク」は無いのか? そうではない。今回の「G」では、重力という、ストライクゾーンの場を彼らは作る。「G」に立ち会う私たち観客も、MuDAも純粋な遊戯で、浮遊できるか。汗ばむライブは必見だ。

松井智恵 (現代美術家)

ticket

一般 前売 ¥3000 (一般ペア ¥5000) 学生 ¥2000 当日 ¥3500 (一律)

チケット取扱: JCDN 事務局
TEL:075-361-4685 E-mail:jcdn@jcdn.org
京都芸術センター チケット窓口 (10:00~20:00)
※京都公演のみ

JCDN ダンスサブ
ダンスオンライン予約サービス
<http://dance.jcdn.org>
「踊りに行くぜ!!」Ⅱの全てのチケットはこちらで予約可能!
JCDN会員への割引サービスあり。

全体企画・制作・問い合わせ:
NPO法人 Japan Contemporary Dance Network (JCDN)
〒600-8092 京都市下京区神明町241 オハス四条503
<http://www.jcdn.org>

ディレクター:水野立子 制作:北本麻理 和田ながら 千代苑子
プロデューサー:佐東範一

舞台監督:尾崎聡 關秀哉 (RYU) 照明デザイン:高田政義 (RYU) 音響:大久保歩 (KWAT)
取材協力「報告するぜ!!」:飯名尚人 國府田典明
宣伝写真:大橋翔 デザイン:Marble.co